

平成30年度

第1回

自己評価委員会報告書

於：平成30年7月

学校法人長野県理容美容学園

松本理容美容専門学校

自己評価委員会報告書

日 時：平成30年 7月 4日（水） 10：30～12：30

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山広報企画部部長
(学校) 百瀬校長・小原教務主任

長尾理事長挨拶

今年度、松本校が無事、職業実践専門課程認定校になることが出来、今後継続していかなくては
いけない。自己評価することで、長野・松本共にレベルの高い学校になってきた。学校の発展のために
自己評価は重要であると考え。良い意見を出し合い、向上し続けてほしい。

【審議検討事項】

1. 平成30年度自己点検・自己評価について

30年度中間報告として、教育理念の1項目・教育活動の2項目・学生支援3項目・学生募集と受け入れ
2項目・財務2項目・法令等の遵守項目について、継続された評価4の項目と、3から4に評価改善され
た項目の報告。

評価3の項目については、今年度末には評価4になるように、改善する必要がある。

基準7について、評価4から3になっているが、学生募集については涉外として多くの方策の実施や広報
活動をしており、評価4のまま良いのでは。今年度、取り組みには手ごたえを感じているので継続して
評価4としていく。

2. 平成30年度重点目標について、中間報告

① 授業内容の充実 ②教職員の指導向上を図る ③教育活動の評価をあげる

中間報告として、現時点で30年度重点目標の実施状況の報告

④ 学生募集の対策について

課題として、飯田方面の県外流出に対する対策を検討していく必要。飯田方面の地域性も考慮し
ていく。南信方面に魅力あるサロンが少ないことも要因の1つでは。

通信制の授業料を下げている学校も増加傾向である。飯田方面から在籍している学生たちに対する
補助が必要。宿泊代の免除等。

AO入試に対する方策。高校回りを実施し、高校との信頼関係は構築できている。基本的に地元
志向である。

HPに卒業生の活躍状況を積極的に掲載していく。改善をし良い情報を発信していく必要がある。
今後、31年2月までに重点目標並びに課題についても、結果を出していきたい。

3. 学校関係者評価委員会より報告

- ・平成29年度自己評価報告
- ・平成29年度重点目標の実施報告・課題の説明
- ・職業実践専門課程について
- ・平成30年度重点目標 ①授業内容の充実 ②教職員の指導向上を図る ③教育活動の評価をあげる
④学生募集対策について説明
- ・就職セミナーに対する委員の感想

以上が、学校関係者評価委員会にて検討した事項の報告

4. 嶋村副理事長挨拶

自己評価委員会・学校関係者評価委員会の在り方を再確認して頂きたい。認定に向けて重要な部分である。自己評価とは、自分たちがたてた目標がどこまでできたかの評価。その自己評価に対する意見を他者評価として、学校関係者評価委員より意見を頂く。情報が重要となる時代であるので、いかに多くの情報を外部から入手し、いかに上手に取り入れることが出来るのかが、重要である。いずれは、第三者からの評価を公正にしていく時代がくるのでは。同一の項目について、同一の評価基準のもと評価される時代である。

5. 次回第2回自己評価委員会 平成31年2月25日(月) 10:30～(松本校)
30年度自己評価まとめ

平成30年度

第1回

学校関係者評価委員会報告書

於：平成30年7月

学校法人長野県理容美容学園

松本理容美容専門学校

第1回学校関係者評価委員会 報告書

日時：平成30年7月17日（火）13：30～15：30

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：(有)ミヨシ取締役社長 三好 政明先生・(有)大和インターナショナル代表遠山 一行先生
百瀬校長・吉川事務局長・小原教務主任・桐山広報企画部長

百瀬校長より 職業実践専門課程の認可が5月におりました。先生方のご協力のお陰です。

引き続き、実績を残していく必要があるため、ご協力宜しくお願い致します。

【議題】

1. 平成30年度第1回自己評価委員会報告

30年度中間報告として、教育理念の1項目・教育活動の2項目・学生支援3項目・学生募集と受け入れ2項目・財務2項目・法令等の遵守項目について、継続された評価4の項目と、3から4に評価改善された項目の報告。

評価3の項目については、今年度末には評価4になるように、改善する必要がある。

基準7について、評価4から3になっているが、学生募集については涉外として多くの方策の実施や広報活動をしており、評価4のままで良いのでは。今年度、取り組みには手ごたえを感じているので継続して評価4としていく。

（基準1）教育理念・目的・育成人材像等

- ・評価4であるが、多様化する入学生に対する方策を考えていく必要がある。卒業後、サロンに入社して活躍できる学生育成を行っていく必要がある。

（基準3）教育活動

- ・平成29年度より、ヘアカラー協会資格取得のため、対策授業を実施している。
- ・平成30年度からパーソナルカラー検定授業を導入する。

（基準5）学生支援

- ・学生寮を確保し、必ず、入寮前に保護者・本人に対し、入寮説明会を実施している。
- ・就労条件向上のために、学校支援サロンに対し就職セミナーを開催し、高校生の動向及び業界発展のために必要な内容を理解して頂いている。今後も定期的に就職セミナーを開催していく。

（基準7）学生募集と受け入れ

- ・今後より一層、学生募集状況は厳しくなると考えている。本学園独自の魅力を伝え（国家試験合格率100%・就職内定率100%・全国規模のコンテストでの好成績・教育内容の充実・支援サロンとの協力体制等）選んでもらえる学校をPRしていく必要がある。
- ・今年度学生数が減少した一因として、中南信地区の就職率の高さが1番である。
- ・県内の高校廻りを実施してみて、地元志向の学生が増えてきている傾向。就職率についても昨年度より減少傾向であると感じた。
- ・学校のインスタグラムを始めている。今の所問題はないが、今後、個人情報の管理方法等きちんと検討していく必要がある。
- ・卒業生とのパイプラインを太くする必要があるため、今後、HPを中心に情報収集できるよう、業者に依頼しており、HPにて卒業生から高校生に向けたメッセージを作成していく。
- ・理容科支援サロンとの協力体制完備。定期的に懇談会を開催し、意見交換を行っている。
- ・選択科目授業において、サロン技術の授業も実施している。（カット・カラー・スパニスト等）

- ・平成31年度美容科2年次における選択実習授業を導入するためのカリキュラム編成を整えている。インスタ映えなどの撮影技術・ネイル応用・特殊メイク・サロンパーマ技術を導入する。
- (基準8) 財務
- ・財務面での処理については、正確な会計処理が実施されている。記述方法として、資金収支(消費)を事業活動に変更。
 - ・学校法人会計基準に基づき、適正な会計処理が実施され、業務及び経理状況の会計監査が行なわれ、会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会に報告している。
- (基準9) 法令等の遵守
- ・学生便覧に学則が明記されている。また「学生指導内規」もあり、学生、教職員が共有している。

② 平成30年度重点目標中間報告について(別紙1)

- (1) 授業内容の充実 (2) 教職員の指導向上を図る (3) 教育活動の評価をあげる

中間報告として、現時点で30年度重点目標の実施状況の報告

- (4) 学生募集の対策について

課題として、飯田方面の県外流出に対する対策を検討していく必要。飯田方面の地域性も考慮していく。南信方面に魅力あるサロンが少ないことも要因の1つでは。

通信制の授業料を下げている学校も増加傾向である。飯田方面から在籍している学生たちに対する補助が必要。宿泊代の免除等。

AO入試に対する方策。高校回りを実施し、高校との信頼関係は構築できている。基本的に地元志向である。

HPに卒業生の活躍状況を積極的に掲載していく。改善をし良い情報を発信していく必要がある。今後、31年2月までに重点目標並びに課題についても、結果を出していきたい。

- ・31年度より実施する美容科自由選択授業において、自由選択による問題点もあるので、今後、検討していく。本校の特色としていきたい。

③ 職業実践専門課程について報告

- (1) ヘアカラー：平成30年度より実施予定であるヘアカラリスト検定シングルスター受験に向けた教職員研修の実施。現場で活用できる技術を学ぶ。
- (2) カット：支援サロン講師によるカット授業を実施している。反省点・課題を明確にし、後半の授業に反映していく。
- (3) メイク：1年生対象のメイク検定試験終了。JMA3級・2級の受験者71名中、57名特殊メイクの授業内容も導入予定である。
- (4) ネイル：1年生対象として、ネイル授業内容を連携企業と共に専任教師・担任との打ち合わせを進めている。
- (5) コミュニケーション：2年生サービス検定授業が終了し、検定試験結果99名中、69名合格。(69.7%)全国平均よりやや向上した。
教職員・嘱託講師合同で、「学生の興味を引き出す授業方法」についての講習会を受講。全体指導からの、個々の指導の大切さを学ぶ事が出来た。学生の特徴を明確につかんでいく必要性。

2. 学校関係者評価委員より提言

(遠山委員)

- ・コミュニケーション検定の合格率が69.7%という事に驚いている。実践の問題が出来ていないという事だが、サロンで1番役立つ教科だと思うので、もっとしっかりと勉強して合格率を上げてほしい。学生の社会人になるにあたっての意識を高める内容の実践に近い授業内容にしてほしい。実務実習の方が、効果的なのでは。
- ・リーダー格の学生が少なくなっている。将来的にサロンオーナーというより、組織の中で働いていたい学生も増えてきているのでは。入社したからには永く働きたいという考えも理解できるが、業界として活性化する必要性もあるのでは。個人サロンも増加傾向である。

(学校より)

- ・学生の質が2分化傾向のため、講師も苦勞している。学校とサロンとの評価の違いもあるのでは。
- ・就職先については、就職部中心に学生の質・考えに合ったサロンを選択させている。トータルサロンのみでなく、ネイルサロン・アイリストサロン・ブライダルサロンなど分かれている傾向個人店のみでなく、株式の企業サロン希望者も増加傾向である。

(三好委員)

- ・東京美容組合にて、美容師になろうキャンペーンを実施する予定である。今後、結果を参考にし長野県でも導入していきたい。組合・ディーラーの協力のもと、イベント開催するには継続していく事が必要な時代である。松本支部で、ゆかたキャンペーンを毎年開催している。今後、学校もヘアメイクの協力をしてほしい。
- ・信毎ビル新社屋にて、イベントを今後実施してみたらどうか。新しい施設であり、オープンスペースもあるので、利用価値はあるのでは。
- ・就職ガイダンスの時のサロン側の服装について、もう少しTPOを考えてほしい。学生が就職活動中に、面接時の服装の在り方も2分している。個性の出し方も大切だと思うが、業界発展のためにも、きちんとするべき時が必要なのでは。
- ・理容科の再開については、学校の特色となると考えるので、良かったのでは。今後、卒業生の活躍を期待していきたい。規制緩和した事を上手く活用できれば、学生募集の枠も広がるのでは。

(学校より)

- ・校外イベントの実施については、必要性を感じているので、今後カリキュラムを見ながら、前向きに検討していきたい。
- ・服装について、1年次のオリエンテーションで、紳士服アオキから講習を受けている。また、修学旅行にて、オスカーで歩き方・立ち姿勢・すわり姿勢の在り方を学んでいる。
- ・県外サロン就職率は3割。県外のサロンで勤務し地元でサロンを開いているサロンも増えてきている。

3. 次回予定

第2回学校関係者評価委員会 平成31年3月13日(水) 13:30～